



vol.
32

サポセンニュースレター 2023年秋桜号



p4-5_【サポセンの事業報告】

- 第7期 まつど地域活躍塾 公開講演会
- NPO・市民活動よろず講座
 - 1 「親子で体験！楽しく学ぶ防災ワークショップ」
 - 2 全国の被災地で大活躍のツンさんが語る
「世界が広がる、魅力的な人と出会えるボランティアのススメ」

p6_【ある日のサポセン】

「大人のためのボランティア体験」を活用してみませんか？

p7_【チャレンジャー】

Chouette (シュエツテ)

p7_ サポセン新規届出団体

p8_【スタッフコラム】

デジタル一眼レフはじめました



サポセン
メルマガ登録はこちら！
<https://bit.ly/3gf0dh6>



まつど市民活動
サポートセンター

<http://www.matsudo-sc.com/>



地域で考える

こどもにやさしいまちと こども基本法



ユニセフが発信している定義では「子どもの最善の利益を図るべく、子どもの権利条約に明記された子どもの権利を満たすために積極的に取り組むまち（市町村など）」^{*1}とされています。松戸市においても子どもや子育てに関わっている市民活動団体が連携し、「こどもにやさしいまち、まつど」キャンペーンという活動が始まっています。

今回の特集では、こちらのキャンペーンが主催した勉強会の様子を取材させていただき、こども基本法や地域で求められていることについてレポートしていきます。この勉強会は、こどもにやさしいまちの実現のために、キャンペーンを推進する実行委員会が企画したもので、こども家庭庁の胡内敦司さんが講師となり、市民活動に関わっている方、幼稚園や保育園の関係者など多くの方が集まっていました。

*1 「公益財団法人 日本ユニセフ協会」ホームページより引用 <https://www.unicef.or.jp/cfc/about/>



地域で考える「こどもにやさしいまち」

開催日：2023年8月26日(土)14時～16時
場所：まつど市民活動サポートセンター大会議室
講師：胡内 敦司さん(こども家庭庁)
主催：「こどもにやさしいまち、まつど」キャンペーン実行委員会
共催：認定NPO法人かものはしプロジェクト

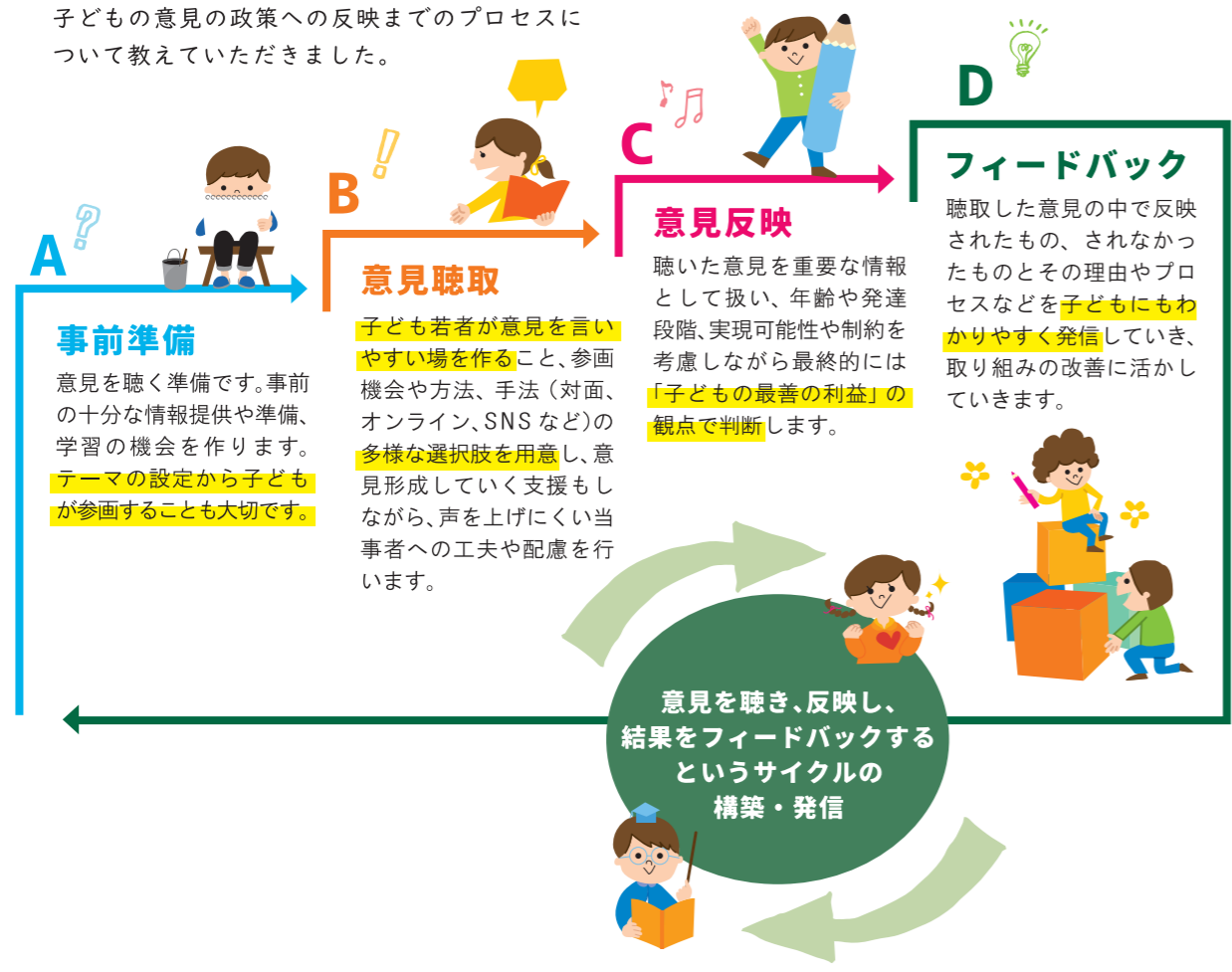


point 2

かなめは「こども・若者の意見反映の仕組みづくり」

子どもの意見をどうやって聴く？

子どもの意見の政策への反映までのプロセスについて教えていただきました。



A 事前準備

意見を聴く準備です。事前の十分な情報提供や準備、学習の機会を作ります。テーマの設定から子どもが参画することも大切です。

B 意見聴取

子ども若者が意見を言いやすい場を作ること、参画機会や方法、手法（対面、オンライン、SNSなど）の多様な選択肢を用意し、意見形成していくしながら、声を上げにくい当事者への工夫や配慮を行います。

C 意見反映

聴いた意見を重要な情報として扱い、年齢や発達段階、実現可能性や制約を考慮しながら最終的には「子どもの最善の利益」の観点で判断します。

D フィードバック

聴取した意見の中で反映されたもの、されなかったものとその理由やプロセスなどを子どもにもわかりやすく発信していき、取り組みの改善に活かしていきます。

意見を聴き、反映し、結果をフィードバックするというサイクルの構築・発信

point 3

まとめ：「こどもにやさしいまち、まつど」へ地域でできること

私たちサポートセンターでも中高生を対象とした事業など行っていますが、今回のお話しを参考に子どもたちの意見を取り入れていきたいと感じました。

「こどもまんなか」の実現に向けて、大人は何ができるのか、みんなで考えていくことが重要です。個人の取り組みと、つながる・集まること、行政の力、それぞれを活かして、一緒に「こどもまんなか」の実現を目指して、「こどもにやさしいまち、まつど」を作っていきます。子どもにやさしいまちは、市民の皆さんにもやさしいまちになると思います。



子どもたちを取り巻く状況は厳しいです。子どもの総数は減り続けているのに、虐待相談対応件数は増え続けています。しかし、保護者は生まれる前から子どもを不幸せにしようと思いません。結果として困難な状況が生まれてしまっている。そうならないように、社会全体で子ども・子育て世帯を支援していくことが重要となります。地域では、どのようなことができるのでしょうか？

近所で気になる家庭がある、幼稚園や保育園で体調不良を繰り返す子どもがいるなど、小さな異変や違和感にアンテナを高くして、その情報を関係者で共有し、個々のこども・家庭のニーズに応じた支援を連携して早く届けることができるネットワークづくりは大切です。虐待家庭を探すという視点ではなく、子育てをしっかりと応援していくという目線で寄り添った対応をしていきたいですね。

最後に講師からは

point 1

こども基本法は難しくない！日々の取組こそが大切

- こども基本法においては、地方公共団体の責務や、地方公共団体に対する義務の定めがあります。
- 1 国のこども大綱を勘案し、「こども計画」を策定する
- 2 こども施策の策定・実施・評価に当たり、子どもや子育て当事者等の意見を聴取して反映させる
- 3 関係機関や団体等の有機的な連携の確保 など

お話しの中で特に印象的だったのが、意見表明について、こども施策に対する子ども、子育て当事者等の意見を反映させていくことが大切になります。どのよう

基本理念として、全ての子どもについて、『個人として尊重されること』、『基本的権利が保障されること』などが明記されています。

こども基本法の対象は『全てのこども』。また、『こども』とは『心身の発達の過程にある者』と定義されていて、年齢で限定している訳ではありません。



講師：胡内 敦司さん (こども家庭庁)

「頭でっかちにならないことが大切。目の前の子どもや保護者との関わり、日々の取組の中にこども基本法の理念があります。現場での取組と学びを両輪で回していきますよ。」というメッセージから始まり、こども基本法のことについて話されました。

2023年5月24日(水)実施

第7期まつど地域活躍塾 公開講演会

第1部 基調講演

人生をゆたかにする、私とまちのつながり方
～人生100年時代の生き方を考える～

講師 牧野 篤さん
東京大学大学院 教育学研究科 教授
中央教育審議会 生涯学習分科会委員・副分科会長



第2部 トークセッション

地域とつながる人生のススメ

ゲスト 【岩瀬自治会長】神田正昭さん
【岩瀬自治会員】池田学さん(まつど地域活躍塾OB)
富田文字さん(子ども部)

キャッチフレーズ
明るく楽しい
みんなの岩瀬



岩瀬自治会のパネル
を見に来場者



日本は現在、リタイアする年齢を超えてもまだ様々な場所で活躍できる人々が人口の半分近くになっていきます。これらの人々が活躍できるような仕組みを作り、新しい価値や社会を作り上げる必要があります。地域の中でたくさんの方と対話を行い、ワクワクすることにどんな挑戦してみてもいい、周りを巻き込み、自分も巻き込まれていく。そんな人と人との関わりを紡ぐ社会では、恩返しを期待せず、恩を第三者に渡していく「恩送り」が大切、と牧野先生は説明されました。子どもたちが「あんな大人になりたい」とか「人生100年では短い」と思うような社会を実現してほしい、と結びました。

聖徳大学に隣接する岩瀬自治会は災害時に備えて、様々なイベントやサークル活動などの間口をつくり、地域の住民が参加しやすい自治会活動をしています。子ども部では、大学や市民活動団体の力を借りたり、自治会館をうまく活用しながら、子どもたち自身が活動に関われるようなことをやってきました。そしてこれらの様々な活動を支える地域のボランティア代表として、池田さん(まつど地域活躍塾OB)より、様々な活動に参加する楽しさについてもお話いただきました。

公開講演会は
YouTubeで
ご覧いただけます



<https://youtu.be/9CQt08hYD8Q?feature=shared>

まつど地域活躍塾とは

松戸をより暮らしやすい街にするために、自分の経験やスキルを活かして地域で活躍していくキッカケを見つける連続講座。地域で活躍している実践者を講師に迎えた講義やワークショップ、実地体験を通して学んでいきます。



ワークショップの様子



実地体験の様子



詳細はこちら!
<https://mjuku.matsudo-sc.com/>



NPO・市民活動よろず講座

1 親子で体験！楽しく学ぶ 防災ワークショップ

2023年8月19日(土) 13時30分～15時

サポセンでは毎月1回、よろず講座シリーズということで様々なテーマのミニ講座を開催しています。今回は関東大震災から100年ということと、メディアでも多く取り上げられている防災をテーマとしました。



(写真)を探してマップに書き込んでいきました。

またサポセンがある総合福祉会館は、災害時には収容避難所になることがあります。段ボールベッドが保管されているのを発見したり、施設内にある様々なマークを見つけて楽しみました。

神谷先生は緊急時にすぐに使えるように、防災リュックをベッドのすぐ近くに置いてあるそうで、中に入れておいたり、その他の様々な防災グッズを持ってきていただき、参加者の皆さんも興味津々でした。

サポセンのお隣にある、社会福祉協議会からは、災害時に立ち上げる「災害ボランティアセンター」について紹介していただき、土嚢袋や安全靴、土砂を運ぶ一輪車など、災害ボランティア用品の展示も実施しました。

サポセンでは、防災コーナーを設けて、市の資料を設置していますので、この機会に是非ご自宅の防災対策についてチェックしてみたいかがでしょうか？



2 全国の被災地で大活躍のツンさんが語る ボランティアのススメ

2023年8月26日(土) 10時～12時

ツンさん(角田寛和さん)は常盤平中学、小金高校出身で、現在松戸で靴屋を営む地元民。日本だけでなく世界各地でボランティア・講演活動をしていながら、松戸では初めて！という貴重な機会となりました。

様々なエピソードを交えて、ボランティアの楽しさやコツを語ってもらいました。

東日本大震災直後の「靴がない」というつぶやきから、それまでボランティアなんて：と思っていた靴屋のツンさんが一念発起で東北に向かったこと。避難所で退屈そうなお子もたちをみて、ちよんまげ姿を披露したら人気者になり、別れを惜しむ子どもたちに「来週も来るね」と約束したことがきっかけで今まで続いていること。避難所で女性の洗濯物を干せない現実を知り乾燥機を送るべく寄付集めに奔走、販売店と交渉したところ、その店舗の社員の協力で1台上乗せして送れたこと。数年経ち復興が進んだニュースが流れる脇で、息子が帰ってこない我が家に復興などないと話すお母さんのこと：等々、時折うるっとしつつ、実感を伴ったボランティア論に納得、あつという間の2時間でした。

「断続は力なり」。
気が向いた時にやればいい。
無関心・忘却が一番つらい

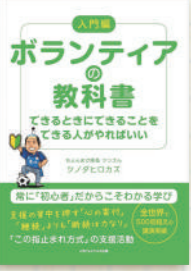
やりたいことを
押し付けるのではなく、
相手のニーズを聞く

みんなやれば早く終わる、
達成感もある、何より楽しい

現場の作業ができなくても、
買う・伝える支援がある

被災地だけでなく国際支援で現地に足を運ぶなど、世界を股にかけ活動するツンさん、「伝える支援」として、実体験を話す場を探しています！学校や学童、コミュニティなどで、ぜひ呼んでみませんか？

ツンさんは、ワールドカップ、オリンピック全て、ちよんまげに甲冑姿で応援するサッカー日本代表名物サポーターなんです



「ボランティアの教科書」
(ごきげんビジネス出版)

ツンさん人生初の著書
EP税は全額寄付!とのことだす

ボランティアやスタッフを募集したい!

「大人のためのボランティア体験」を活用してみませんか?

団体活動をしていくと「活動に興味をもってくれた人に体験に来てもらったり、単発・定期的なボランティアとして関わってもらいたい」という思いが生まれてくることはありませんか? 今年スタートした「大人のためのボランティア体験(通称:大人ボラ)」についてご紹介します!

詳しくはこちら



http://www.matsudo-sc.com/otonanotameno_2023

大人ボラとは

20代以上の方の気軽なボランティア体験や、市民活動団体のスタッフとして参加していけるような体験プログラムを市内の市民活動団体より募集し、希望する方とマッチングする仕組みです。

活用の流れ

1 まずはサポセンにご相談を!

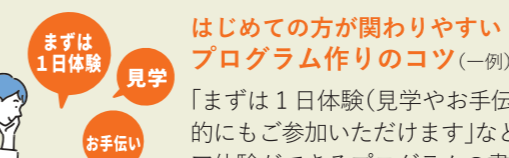


「大人ボラ」の活用や、参加者に公開する「プログラムシート」の作り方についてコーディネーターがご相談に応じます。

2 プログラムシートを作りましょう!



シートにはボランティア体験内容の他、団体の基本情報や普段の活動内容もご記入いただけます。ちなみに、「まずは1回体験してみたい」という思いの参加者が多い傾向にあります。会員(運営スタッフ)になることは前提とせず、「いち早く団体のメンバーになってほしい」と思う団体との間でミスマッチが起きないように、具体的に活動内容や条件を記載することをおすすめします。



はじめての方が関わりやすいプログラム作りのコツ(一例)

「まずは1日体験(見学やお手伝いなど)。その後、定期的にもご参加いただけます」など、ライトにボランティア体験ができるプログラムの書き方がおススメ!

3 ボランティア希望者のご紹介!



ボランティア希望のお問い合わせがあった際に、ご提供いただいたプログラムを紹介します。興味を持った方がいた場合、団体へご連絡しマッチング(ボランティア体験日の調整など)へと進み、成立したら実際の活動に進んでいただきます。

「新しい方に活動に関わってもらいたい!」と思われたらコーディネーターにお気軽にお声がけください!

団体の活動状況に合わせて募集の形と一緒に考えていきます



ボランティア募集の方法

- 「大人ボラ」の活用
- サポセン館内へのチラシ掲示
- サポセンのメールマガジン*

※毎月1回10日前後に発行

CHALLENGER

チャレンジャー 市民活動団体紹介



シュエツテ chouette

お問合せ

代表: 小黒 智恵さん
ブログ: <https://chouette-matsudo.amebaownd.com/>
Instagram: @matsudo.chouette/



【chouette(シュエツテ)】フランス語で、「フクロウ」「すてきな」という意味をもつ言葉。松戸市の「市の鳥」がフクロウから命名



写真(上) 左から

【chacoさん】おうちスタジオの運営、カメラマン
【tomoさん(小黒さん)】松戸市の子育て情報サイト「まつどっ子ナビ」を運営
【haruさん】ぐちゃぐちゃ遊びの親子教室「親子遊びのアトリエ Hare-ru」を運営



松戸市在住のママ3名(皆さん未就学児を2人ずつ子育て中!)による親子向けイベント企画運営チーム。コーディネーターS(以下Co)・小黒さんがharuさんの親子教室に行ったのが立ち上げのきっかけだったそうですね。小黒さん:「そうです。その時「もっと広い場所で行きたい」とharuちゃんに言われたので、私知ってる場所と一緒にやってみるか?と話をした。その会場でchacoちゃんのフォトスポット撮影もやろう、と昨年12月に9組の親子を集めて親子教室を開催しました。その日片付けながら3人で「普段何をしているの?」「これから何がしたいの?」など話してもっと色々なイベントをしたいという想いが重なって、シュエツテが出来ました。Co:「出店者さんたちはどのように集めていきますか?」小黒さん:「初めての5月のすまいるでのイベントは、友人知人5、6組で開催でした。2回目の7月、サポセンで開催した時はSNSで公募もして5組新規で参加してくれました。その時は企業協賛枠も作り、メールでアタックして2社ほど参加してくれました。」

※松戸市市民交流会館



ご自身も育児をする中で助けてくれたのはママ友なので、「そんなママ達に楽しい思いをしてほしい、優しくしたいというのが私たちのテーマです」と語ってくれた小黒さん。

本当に「親子イベントならシュエツテ」と言われるようになるのもそう遠い未来ではないかもしれない…。そう思える取材でした!



NEW REGISTRATION



サポセン 新規届出団体を紹介します!

- BABY MAMA YOGA ■まつどおせっかい部 ■循環する暮らしを愉しむ会
- 東葛合唱団はるかぜ ■親子のためのリトミックcomodo ■CI新松戸
- 子供と家族の未来を考える会 ■木目込人形サークル ■詩吟クラブ

2023年7月1日~9月15日(届出順・敬称略)





デジタル一眼レフはじめました

まつど市民活動
サポートセンター
コーディネーター補助
小池 ひろの

はじめまして。4月からサポセンで週2
回ほど広報担当として活動しています。
サポセンとの出会いは2年前参加した「ま
つど地域活躍塾」で、私は5期生でした。
ここでは主にチラシを作ったり、Face

bookページの更新をしたり、施設を利用
される方への案内をわかりやすくまとめ
たりしています。ちなみに、広報の仕事をして
いたかとよく聞かれますが全く違います。
ただ「そこに無い情報をまとめて伝える」と
いう感覚は以前建築設計の世界で身につけ
たスキルに似ていると感じています。

情報を伝える際に私が最も有効だと思っ
たのはやはり写真です。動画は多くの情報を
伝えるのに優れていますが、時間経過を想
像力で補う写真の方が観る人それぞれのイ
メージを引き出せると思うからです。今年
の3月にミラーレスデジタル一眼レフカメ
ラを購入しました。初心者モデルですが今
の私には充分です。かつては空間を正確に

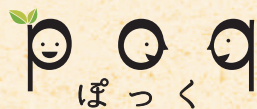
余談ですが、首からカメラを下げて歩いてみると、
カメラ好きの方から声をかけてもらうことが多いです。
これは「犬の散歩」と同様、「コミュニティ参加への
ツール」としても有効ではと思う今日この頃です。

表現するよう被写界深度の深い写真を撮っ
ていましたが、最近是一部にピントの合った
被写界深度が浅い写真で情景の一部を切り
取るような撮り方が好きになっていきます。
写真のフレームの外で起こっていること、
写真を撮る前や後で、その場で起こっている
ことを想像しながら見てもらえるような
写真が撮れたらいいと思います。

大好きな古民家隠居屋にて
ライカで撮っていただきました！



サポセンニュースレター



第32号(2023年秋桜号)

発行日: 2023年9月15日
(※年4回発行)
発行元: まつど市民活動サポートセンター
(指定管理者 NPO法人まつど NPO協議会)

「ぼっく」の
主な設置場所 松戸市内の図書館、市民センター、公民館など各種
公共施設の外、松戸駅などに設置しています。

「ぼっく」設置協力店

- Sampo Café (ハヶ崎7丁目)
- 子育てつながるセンター co-no-mi (本町13-27)
- 松戸観光案内所 (本町7-3)
- やしま商店 (本町6-3)
- 隠居屋 IN kyo-Ya (南花島中町196)
- はれの日サロン (常盤平3-11-1 西友常盤平店5階)
- いわぼんホール (岩瀬38)
- さんさん カフェ (仲井町2-6-4)
- omusubi 不動産 (総合1-21-1 あかぎハイツ112)
- Coworking Space Flat Café & Bar (新松戸3-289)
- 昭和セレモニー松戸・矢切・北小金儀式殿 (千駄堀620-1・栗山19-4・殿平賀75-2)
- 松戸スタートアップオフィス (松戸1307-1 松戸ビル13F)
- まちかどアトリエ Neiro (松戸1117 ビラ松濤2F C号室)

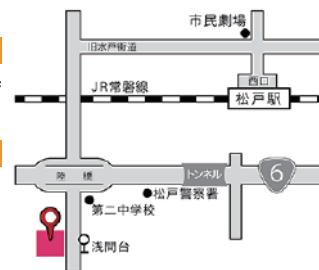
「ぼっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します！

ニュースレター「ぼっく」を、お店や施設に配架していただけますか？
ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。
もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。詳しくは、まつど市民活動
サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。

まつど市民活動 サポートセンター

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1 (総合福祉会館内)
TEL: 047-365-5522 FAX: 047-365-5636
E-mail: hai_saposen@matsudo-sc.com
URL: <http://www.matsudo-sc.com/>
facebook: <https://www.facebook.com/matsudo.sc>

開館時間
月～土: 9時～21時
日: 9時～17時
休館日
第1・第3水曜、
年末年始
(12/29～1/3)



編集後記

9月に入っても猛暑が続き、秋
はいつ来るのかと苛立つ中、
鈴虫の声に癒されます。(ひ)